

OPINION

中部経済新聞

今月から、中央アジアにおける経済・政治的な雄、カザフスタン共和国からの報告と期待を紹介する。国土は日本の7倍以上、世界の内陸国では最大の規模を誇る。東は中国、南はキルギス、ウズベキスタンなどと接し、南西でカスピ海に面する広大な国である。

↑ナビゲーター

新型コロナウイルスまん延という最強の打撃からようやく立ち直りかけた世界経済は、2022年に「ウクライナ危機機」「中国のきびしいインフレ対策」「世界各国の主要中央銀行のインフレ対策」という一連の衝撃に直面しました。ウクライナでの軍事行動

日本への期待 世界各地から

其 55

中央アジアの雄、世界最大の内陸国

は、ロシアというかなり大きな担い手が世界のエネルギー資源市場から脱落することにつながりました。多くの専門家たちは、世界的なエネルギー危機がすぐにも訪れるだろうと考えていました。

カザフスタンの概況(1)

ライナ侵略以前の水準に戻っています。ガス市場でも同様の構図が見られます。個人消費の伸びは、世界経済に有利に作用しました。多数の国で、経済活動の回復にともない、溜め込んでいた需要を満たすために、家計の支出を増加させました。

国際通貨基金(IMF)は、2022年の世界経済の成長率は3.4%になると予測しました。世界経済の成長率は、23年には2.9%にまで減速し、24年は3.1%に回復す

ると予想されるものの、過去20年間の年平均3.8%を下回ると思われます。2023年には、先進諸国10カ国のうち9カ国で成長が鈍化するようです。2022年末には、外部からのマイナス要因にもかかわらず、カザフスタンのGDP成長率は3.1%でした。生産財は3.2%、サービス産業(5.4%)、金融・保険(3.9%)、情報・通信(3.5%)とあります。

国家機関である経済研究所の予測によると、2023年のカザフスタン経済の成長率は3.8%(22年は3.1%)です。最も高い成長率が見込まれるのは、以下の産業分野です。鉱業(6.6%)、貿易(5.4%)、金融・保険(3.9%)、情報・通信(3.5%)となります。

国際機関も、カザフスタン経済についてほぼ同様の予測をしています。

【グルスム・アクタムデルドウィーバ、リーム中産連】(月曜日に掲載)